様式第１（第１５条関係）

会　　議　　録

会議の名称	令和４年度第３回和泉市障がい者地域自立支援協議会
開催日時	令和５年３月２８日（火）　１３時３０分から１５時３０分まで
開催場所	和泉市コミュニティセンター１階中集会室
出席者	・和泉市障がい者地域自立支援協議会委員 大谷委員、小尾委員、明石委員、 階元委員、阪本委員、奥野委員、山本委員 森委員、今村委員、南委員、佐々木委員 ・事務局 黒川（障がい福祉課長） 宮本（障がい福祉課障がい者支援係係長） 前田（障がい福祉課）、久芳（障がい福祉課） 沖田（基幹相談支援センター　センター長） 金﨑（基幹相談支援センター　係長） 興梠（基幹相談支援センター） 北山（基幹相談支援センター） 川瀬（基幹相談支援センター） 鍛治（子育て支援室こども政策担当総括主幹） 伊勢（子育て支援室こども政策担当主査） 仁木（子育て支援室こども政策担当） 上野（子育て支援室こども政策担当） 堀（くらしサポート課長） 小林（くらしサポート課長補佐）
会議の議題	１．和泉市障がい者就労支援センターについて ２．子ども部会（案）について ３．令和４年度における各部会等の進捗と今後の方向性について
会議の要旨	・和泉市障がい者就労支援センターの目的、概要の説明を行った。 ・子ども部会（案）について報告と意見聴取を行った。 ・令和４年度における各部会等の進捗と今後の方向性について報告を行った。
会議録の作成方法	□全文記録 ■要点記録
記録内容の確認方法	■会議の議長の確認を得ている □出席した構成員全員の確認を得ている □その他（　　）
その他の必要事項（会議の公開･非公開、傍聴人数等）	会議：公開 傍聴者０人

審　議　内　容　（発言者、発言内容、審議経過、結論等）
開会 委員紹介及び事務局職員紹介 議長挨拶 【議長】 　議題１、和泉市障がい者就労支援センターについて事務局よりご報告をお願いする。 【事務局】 　和泉市障がい者就労支援センターについて報告 【議長】 　只今の報告について、委員からの質問・意見を求める。 【委員】 　色々と相談窓口が増えることは良いことだと思うが、当事者からすると相談先の窓口が分かりにくいように感じる。そのため、相談窓口の特徴や機能についてもう少し明確にし、相談先の区分けをした方が良いのではないかと考える。 【事務局】 　相談窓口が増えることに関して、相談者によっては、以前の担当者とは合わないということもあるため、相談機関が一つ増えたと思っていただければと思う。 【議長】 　まずは、多様な窓口を設置し、どこの機関にも引っかからないまま沈んでいくことがないようにどこかに相談できる仕掛けがあって良いと思う。待っていても来ないならば、こちらから出向いて制度につないでいけるようにすることも必要である。 　また、就労関係機関が連携し、ネットワークを作っていくことが必要であると考える。 【委員】 　３点お聞きしたいことがある。１点目は既存の制度である「若者サポートセンター」との関係について、２点目は年齢制限について、３点目は障がい特性に応じた体制を取っていただけるのかについてお聞きしたい。 【事務局】 　１点目の「若者サポートセンター」については、もともと労働政策として就職情報フェアなどでつながりがあるため、もしつながないといけないケースであればこちらからつながせていただくような形になる。 　２点目の年齢制限については、特に設けていないため、就労を希望する方であれば支援をさせていただくようになる。 　３点目については、くらしサポート課に６名の就労支援コーディネーターが在籍しているうち２名が昨年度、大阪障がい者職業センターの研修へ何度か参加したが、まだそ

こまで経験がないため、障がい特性に応じた体制が確立されているというわけではない。そのため、今後経験を積んでいきながらどういう支援が良いのかを泉州北障害者就業・生活支援センターへ相談をしたり、経験のある方に助言をいただきながら、障がい特性に応じた体制の構築を進めていきたい。

【議長】
　１つのところですべてを対応できるわけではないため、受けた相談が自分のところで対応できない場合は、別のところへつなぐ仕組みが求められる。ワンストップで受け、それぞれが得意とする分野のところへつないでいくという連携が必要。
　また、知的障がい、精神障がい、あるいはヤングケアラーなどの様々な特性のある事業体ができれば、そういったところと連携をするネットワークを組んでいけば良いと考える。

【議長】
　議題２、子ども部会（案）について、事務局より報告をお願いする。

【事務局】
　議題２について報告

【議長】
　只今の報告について、委員からの質問・意見を求める。

【委員】
　子育て支援室として、子ども部会に期待していることは何かお聞きしたい。

【事務局】
　就学後の部分に関して、これまで具体的な協議の場がなかったため、今後はその場を作っていくことで障がい福祉課と子育て支援室の連携が活発になっていくということや、そこで出てきた課題を検討し、障がい児支援の具体的な施策に落とし込んでいけるようにすることを期待している。

【委員】
　グリーンルームの利用について、抵抗を感じる家族もいらっしゃる。家ではない地域での居場所をもう少し作っていかないといけないという視点も考えていただきたい。

【議長】
　和泉市に１か所しかないグリーンルームに行くとなれば、交通手段や交通費をどうしていくのかという問題もあり、利用につながりにくいことがある。そのため、グリーンルームの他にも、家ではない地域での居場所作りを進めていただきたい。

【事務局】
　やはりコロナ禍で不登校の子が増えていることもあり、その課題について教育現場で何ができるのか、児童福祉として何ができるのか、地域の中でどのようなことを担っていただけるのかということのお話も出ている。

また、ヤングケアラーや生きづらさを抱えている子どもたちの居場所を地域の中で作っていかないといけないと感じているため、社会福祉協議会や様々な社会福祉法人の方々と提携しながら取り組んでいけたらと考えている。

【委員】
成人期の障がい者と関わる仕事をする際、どういう学校生活だったのか、その人の人物像などについての情報を、支援学校の先生から情報把握をするための期間が短くなると、次のステップにつなげやすいので、その辺りの意見交換ができるように子ども部会で期待したい。

【事務局】
児者連携というところで、教育と福祉の連携の部分は子どもという部分だけで進めていくことは難しいので、取り組んでいける課題があれば既存の部会と取り組んでいくことも考えている。

【委員】
令和８年度に認定こども園ができると思うが、その中に医療的ケアの子どももいらっしゃると思う。今後、子育て支援室だけではなく、こども未来室も自立支援協議会に参加するのか教えていただきたい。

【事務局】
今の時点ではその予定はない。

【委員】
これから子ども部会が動いていく中で様々な課題が出てくると思うが、目に見えない課題をすくい上げることが必要。それを解決していくということがこの部会ではないかと思う。

【議長】
様々な課題を見える化していく作業も必要である。
また、その人のニーズに応じた形で支援を継続できるかどうか。「わたしノート」や「社会資源マップ」などを作って終わりではなく、更新して必要なものは残していくことも必要である。

【議長】
議題３、令和４年度における各部会等の進捗と今後の報告性について事務局より報告をお願いする。

【事務局】
議題３について報告

【議長】
只今の報告について、委員からの質問・意見を求める。

【委員】
　就労支援部会の平均工賃についてだが、令和２年度から令和３年度まで、６５０円増加したとの実績は、和泉市にある５０何件かの就労継続支援 B 型事業所の平均ということなのか。

【事務局】
　平均工賃の出し方としては、各事業所のすべての工賃の総額を人数等で割るという計算方法である。よって、和泉市内全ての事業所における平均工賃ということである。

【委員】
　相談支援部会で取り組んでいることを教えていただきたい。

【事務局】
　今年度は、基幹相談支援センターや障がい者相談支援センターがペアになって、事業所訪問で把握した計画相談支援における課題やニーズを把握、それに対応するような取り組みを行ってきた。今後の方向性としては、相談支援専門員に向けてのオンライン相談やネットワーク会議、勉強会を通じて相談支援専門員から「こういうところに困っている」という声をダイレクトに聞き、その場で解決できるものは解決する。また、その挙がった声から見えてくる大きな課題というものをしっかりと整理し、全体会やネットワーク会議で議論していくという構成で進めていこうと考えている。
　また、現場の方からの意見は非常に重要なものであるため、基幹相談支援センターや障がい者相談支援センター、地域の相談支援専門員からも運営等に関する意見を頂戴しながら、さらなる運営を図っていきたいと考えている。

【委員】
　精神障がいについてだが、精神の問題は当事者だけの問題ではない。当事者と家族を一体として考えないといけないような問題が多く存在することをご理解頂きたい。そのため、今後とも市と相談支援事業所の関係者の皆さんには、できるだけ頻繁に意見交換や悩みを聞く場を作って頂きたいと思っている。

【委員】
　ココスルを開くと「準備中」という項目が多くあるため、更新やアップを随時してほしい。

【委員】
　和泉市にはまだ多くの課題があり、部会が構成されていない分野もあるかと思う。まだ残っている課題とは何かをぜひ点検していただきたい。

【事務局】
　既存の部会では対応できないような課題がまだ多くあることは、事務局としても認識している。そのため、そういった課題を幅広くかつ柔軟に対応できるものとして、支援の質向上・ICT ロジェクトチームを発足させたという経緯があり、多くの課題がある中でも優先順位を決め、課題解決に向けて取り組みを進めている。

【委員】
　和泉市の平均工賃が大阪府の中でも低いのかなと思う。ただ、最近の制度の変わり目で、就労継続支援 B 型事業所は、工賃を追い求めていくのと工賃を追い求め過ぎず支援の質を充実させていくようなタイプと分かれてきているが、もう少し課題となっていることの解決に向けて、部会で頑張れるところはあると思う。

【委員】
　インボイスやマイナンバーという課題がある。マイナンバーで言うと、例えば知的障がいが重い方は自己管理ができないことから支援者が代わりに管理することがあると思うが、それは違法行為になる。そのマイナンバーの記載をどのように扱うのかという結論も出ていない。そういった課題が多くある。

【議長】
　そういったまだ見えていない課題を少しずつ見える化していく必要がある。
また、差別解消法に伴う民間の合理的配慮の義務化や言語コミュニケーション条例についても留意しておく必要がある。
　そして、令和５年度のポイントとして、地域で孤立する利用者をそのままにせず支援につなげられるように、地域を見る目を持った相談支援専門員や相談支援体制が求められてきていると思う。今の相談支援体制で良いのかということを考え、基幹相談支援センターや障がい者相談支援センター、計画相談支援事業所の在り方を重層的に見直していくことを今後検討すべきことだと考えている。

【議長】
　来年は、障がい福祉計画を策定する年になっている。もう一つの長期計画である障がい者計画の見直しはするのか。

【事務局】
　しない。基本的には、何か大幅な前期計画や後期計画という立てつけを行っているものではない。
【委員】
　国から障がい福祉計画の指針が示された中に、新たに強度行動障がいを目標設定するということが入っている。そのため、和泉市内にどれだけ強度行動障がいについてのニーズをお持ちの方がいらっしゃるのかという実態把握をしないといけないと思う。

【事務局】
　そのことについては、障がい支援区分の認定調査から行動関連項目の点数から人数の把握はできる。
障がい福祉計画策定にあたっては、障がい者手帳を所持している方にアンケート調査を実施予定であり、アンケート調査項目については、障がい者施策推進協議会で協議することとなる。

【議長】
　強度行動障がいは、障がい児の障がい区分１～３も入るのか。

【事務局】
　それに関しては、国から示される基本指針を確認したうえで対応をしていきたい。

【事務局】
　以上をもちまして、令和４年度　第３回和泉市障がい者地域自立支援協議会を閉会させていただきます。ありがとうございました。